

### (3) 国際交流と多文化共生の推進

#### 【施策の目的】

グローバル化の進む社会で活動する人材を育てるとともに、外国人住民との相互理解を深め、多文化が共生する地域をつくります。

#### 【評価】

##### <前年度から評価実施年度上期までの成果と課題>

- ・グローバル化する社会で活動する人材の育成につなげるため、また、県民の異文化理解を促進するため、国際交流事業を実施している。参加者の固定化がみられることから、若い世代を含めた新たな層の参加を促進し、参加者の裾野を広げることが課題である。
- ・県内の外国人住民人口は令和7年1月1日現在で10,451人であり、外国人住民の増加、定住化に伴って国籍や家族構成が多様化している。そのため、教育・医療・防災など生活全般やライフステージに応じた支援、多言語による対応が必要となっている。
- ・外国人住民向けに訪問型及びオンライン型の日本語教室を開催し、学習機会の提供を行った。外国人住民の増加や新たな在留制度の創設に伴い、より高度な日本語教育の提供が求められており、指導する人材の確保が課題である。
- ・（公財）しまね国際センターに外国人住民向けワンストップ型相談窓口を設置しており、昨年度の相談件数は1,251件であった。様々な相談に多言語で対応することで、外国人住民の生活支援につなげた。一方で、相談内容は複雑化、多様化してきており、相談体制の充実が課題である。
- ・外国人住民をサポートするボランティアが不足しており、また担い手の高齢化も課題である。
- ・地域で外国人住民を受け入れる日本人住民への多文化共生意識の醸成が課題となっている。

##### <第2期島根創生計画初年度から評価実施年度上期までの複数年度にわたる成果と課題>

※上記で重複しない成果・課題を記載

この欄は複数年度にわたる成果と課題を記載するため令和9年度から記載

#### 【今後の方向性】

##### ①国際交流の推進

交流事業のプログラム内容の工夫や、SNSを活用したPR等を行い、参加者の裾野拡大に取り組む。

##### ②多文化共生の推進

日本語教室については、教育プログラムを充実させるため、日本語教育人材の育成を行う。また、市町村における日本語学習の取組、日本語ボランティアの育成に対する支援を行うなど、引き続き市町村と連携し、地域の実情に応じた日本語教育の充実に取り組む。

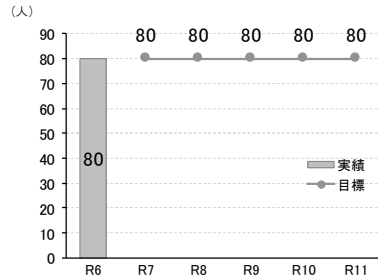
相談体制については、利用者の利便性が高まるよう相談日の拡充や、相談に適切に対応できるよう施設の環境整備を行っていく。

（公財）しまね国際センターや市町村等と連携してボランティア養成講座を開催し、外国人住民をサポートするボランティアの養成、確保に取り組む。

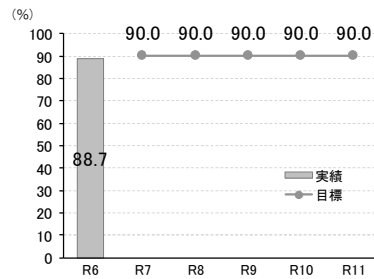
多文化共生セミナーを開催し、多文化共生意識の醸成、外国人住民と日本人住民の相互理解の促進を図る。

### 【施策の主な KPI の状況】

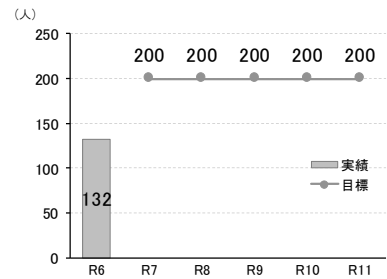
1) 国際交流事業参加人数【当該年度4月～3月】



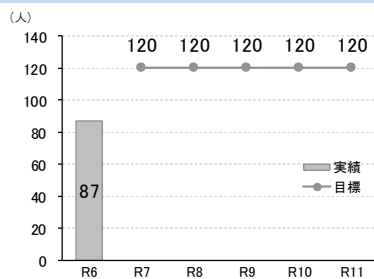
2) 県内在住外国人のうち母国語で県HPの閲覧が可能な人数の割合【当該年度3月時点】



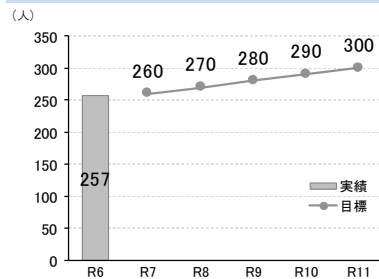
3) 多文化共生セミナー受講者数【当該年度4月～3月】



4) 訪問型日本語教室利用者数【当該年度4月～3月】



5) 外国人住民の支援を行うボランティア登録者数【当該年度3月時点】（累計値）



## 施策の主なK P I

施策の名称		VI-3-(3) 国際交流と多文化共生の推進								
番号	K P I の名称	上段は目標値、下段は実績値					単位	計上分類	備考	
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度				令和11年度
1	国際交流事業参加人数【当該年度4月～3月】	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	人	単年度値		
		80.0								
2	県内在住外国人のうち母国語で県HPの閲覧が可能な人数の割合【当該年度3月時点】	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	%	単年度値		
		88.7								
3	多文化共生セミナー受講者数【当該年度4月～3月】	200.0	200.0	200.0	200.0	200.0	人	単年度値		
		132.0								
4	訪問型日本語教室利用者数【当該年度4月～3月】	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	人	単年度値		
		87.0								
5	外国人住民の支援を行うボランティア登録者数【当該年度3月時点】	260.0	270.0	280.0	290.0	300.0	人	累計値		
		257.0								

(第2期島根創生計画に掲げる施策の【取組の方向】)

①国際交流の推進

国際社会での相互理解を深め、国際的な感覚を養い、コミュニケーション能力を高めるなど、グローバル化する社会で活動できる人材を育成します。

②多文化共生の推進

市町村や関係機関等と連携し、外国人住民に対して、必要な情報の多言語化や相談体制の整備、日本語教育機会の提供をはじめ、教育・子育てや、医療・福祉、防災など生活全般やライフステージに応じた支援を行い、外国人住民と日本人住民との相互理解を促進することで、多文化が共生する地域づくりを進めます。

事務事業の一覧

施策の名称		VI-3-(3) 国際交流と多文化共生の推進				
	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	島根県ホームページ多言語対応事業	県内在住外国人および外国人観光客	くらしに関する情報や災害発生時の緊急情報等が適切に伝わる。	909	909	広聴広報課
2	外国青年招致事業	県民	国際的な相互理解を深める。	19,173	27,486	文化国際課
3	多文化共生推進事業	県内外国人住民と日本人住民	・外国人住民が生活しやすい地域づくり。 ・外国人住民と日本人住民の相互理解の促進	33,113	227,242	文化国際課
4	国際海外協力事業	海外地域住民(島根県との友好交流先、島根県から海外移住した者の子孫)	・島根県が持っている様々なノウハウを海外に移転し、当該国の発展に寄与する。 ・研修員との交流を通じた地域間交流の拡大と国際協力・国際理解の促進を図る。	1,537	1,231	文化国際課
5	国際交流推進事業	県民、友好提携先等の自治体・住民	・北東アジア地域への関心を高め、相互理解と交流を拡大する。 ・民間における国際交流活動を促進する。 ・友好提携先との関係を強化する。 ・次世代を担う国際感覚を備えた青年を育成する。	16,414	24,162	文化国際課
6	しまね国際センターの支援	公益財団法人しまね国際センター	・県民の国際交流・国際協力や多文化共生等の活動に直接的に関わるしまね国際センターを支援することにより、これらの県民の活動を一層促進する	34,162	39,088	文化国際課

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課	広聴広報課
-----	-------

事務事業の名称		島根県ホームページ多言語対応事業			
目的	誰(何)を対象として	県内在住外国人および外国人観光客	事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	くらしに関わる情報や災害発生時の緊急情報等が適切に伝わる。		909	909
			うち一般財源 (千円)	909	909
令和7年度の取組内容	・島根県ホームページにおいて、引き続き英語、中国語(繁体字・簡体字)、韓国語、ポルトガル語、ベトナム語、タガログ語、インドネシア語、ネパール語への自動翻訳機能を運用するとともに、ビルマ語を追加。今後も県内在住外国人の人口動向に応じて対応する。				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直したこと	県内在住外国人の人口、国籍の増減などの動向分析に基づき、インドネシア語、ネパール語への自動翻訳機能を追加。				
1	上位の施策	IV-2-(1) しまねの「暮らし」や「魅力」の情報発信	3	上位の施策	
2	上位の施策	VI-3-(3) 国際交流と多文化共生の推進	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	県内在住外国人のうち母国語で県HPの閲覧が可能な人数の割合【当該年度3月時点】	目標値			90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	%	単年度値
		実績値	82.4	88.7							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2		目標値									
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		県内在住外国人の推移(1月1日現在) (R5) 9,585人 ⇒ (R6) 10,451人									

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・多言語自動翻訳機能を整備しており、令和6年度時点で県内在住外国人の88.7%が母国語で県ホームページを閲覧できる状況
課題分析	① 課題	・県内で就労等をする外国人労働者の数、国籍の変動
	② 原因	・国際経済や国内景気の動向に左右される雇用調整 ・県内に居住・滞在する外国人の多様化により、言語によっては対応ができない。
	③ 方向性	・県内在住外国人の人口、国籍の増減などの動向分析に基づき自動翻訳対応言語を見直す



# 事務事業評価シート

<b>1 事務事業の概要</b>	担当課 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">文化国際課</span>
------------------	---

事務事業の名称		外国青年招致事業			
目的	誰(何)を対象として	県民	事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	国際的な相互理解を深める		19,173	27,486
			うち一般財源 (千円)	19,173	27,486
令和7年度の取組内容		・(一財)自治体国際化協会の実施する外国青年招致事業(JETプログラム)を活用し、県の友好交流先等から国際交流員(中国2名、英語圏・韓国・ブラジル各1名※ブラジルは多文化共生枠)を招致。 ・国際交流員は、主に友好交流先との調整業務や通訳・翻訳のほか、学校・地域を訪問し、異文化理解の促進や多文化共生の推進につながる活動に従事。 ・県内行政機関・教育機関と海外とのやりとりについて、翻訳や通訳の支援を行う。			
令和6年度に行った評価を踏まえて見直した点					
1	上位の施策	VI-3-(3) 国際交流と多文化共生の推進	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	国際交流員の学校訪問・講師派遣件数(年間・一人当たり平均)【当該年度4月～3月】	目標値	/	/	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	件	単年度値
		実績値	7.6	9.4							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2		目標値	/	/							
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実											

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・国際交流員が交流協定先との調整業務を担うことにより、交流事業が円滑に実施でき、県民の国際理解が深まった。 ・学校や一般市民向け講座に対し、国際交流員を派遣し、自国の文化紹介等を行うことで、県民の異文化理解、多文化共生意識の醸成を図った。 ・県内の行政機関、教育機関と海外とのやりとりについて、翻訳や通訳の支援を行った。
課題分析	① 課題	・国際交流員の派遣先が固定化しており、新規の依頼者が少ない。 ・県西部、隠岐地域からの派遣依頼が少ない。
	② 原因	・国際交流員活動状況のPRが十分にできていない。
	③ 方向性	・県HPへ国際交流員の活動状況を掲載し広くPRする。 ・市町村等と連携し、西部、隠岐地域での講座の開催を検討する。 ・県の企画により、講座の開催数を増やす。



# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課	文化国際課
-----	-------

事務事業の名称		多文化共生推進事業			
目的	誰(何)を対象として	県内外国人住民と日本人住民	事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どうい状態を目指すのか	・外国人住民が生活しやすい地域づくり ・外国人住民と日本人住民の相互理解の促進		うち一般財源 (千円)	33,113
令和7年度の取組内容		しまね国際センター等と連携し、外国人住民への支援や多文化共生の推進に向け、以下の施策を実施する。 ・外国人住民への日本語学習の環境整備 ・多言語による相談体制の充実や外国人住民への情報発信強化 ・外国人住民への支援にあたる人材の育成・確保 ・市町村と連携し、多文化共生意識の醸成事業の実施 ・庁内関係課と連携し、外国人住民受入れ・共生に関する全庁的な課題抽出・対応策の検討 ・多文化共生推進拠点施設の整備			
令和6年度に行った評価を踏まえて見直した点					
1	上位の施策	VI-3-(3) 国際交流と多文化共生の推進	3	上位の施策	IV-1-(2) 地域で活躍する人づくり
2	上位の施策	I-3-(1) 多様な就業の支援	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	多文化共生セミナー受講者数【当該年度4月～3月】	目標値			200.0	200.0	200.0	200.0	200.0	人	単年度値
		実績値	264.0	132.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2	訪問型日本語教室利用者数【当該年度4月～3月】	目標値			120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	人	単年度値
		実績値	120.0	87.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・外国人住民と行政等との橋渡し役となる外国人地域サポーター数は、R2:15個人・団体、R3:14個人・団体、R4:13個人・団体、R5:16個人・団体、R6:15個人・団体と推移 ・外国人住民向け相談窓口の対応実績は、R2:1,810件、R3:1,946件、R4:2,308件、R5:1,179件、R6:1,251件と推移 ・「やさしい日本語」出前講座・研修会の実施件数は、R2:18件、R3:21件、R4:19件、R5:12件、R6:16件と推移 ・外国人住民に日本語を教える日本語パートナー(訪問型)は、R2:95人、R3:133人、R4:159人、R5:171人、R6:94人(R6.7月に登録名簿の整理を実施)と推移 ・災害時外国人サポーターは、R2:70人、R3:74人、R4:80人、R5:86人、R6:92人と推移									

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・外国人住民向け相談窓口の利用件数は、対前年比72件増加の状況。 ・災害時外国人サポーターは92人(対前年比6人増)
課題分析	① 課題	・外国人住民が抱える問題は、労働、家庭問題、心理的な問題等幅広く、相談対応は、これら複雑な事情、背景等をふまえて相談者からの話を的確にとらえらるとともに、コーディネーターとしての役割を果たし、相談者との信頼関係構築が求められる。 ・外国人住民と行政、支援団体等の橋渡し役として配置している「外国人地域サポーター」にかかる負担が大きくなっている。 ・外国人住民が、就学、進学、就職等、ライフステージを移行する際に課題に直面することがある。 ・日本人住民の多文化共生意識の醸成
	② 原因	・外国人住民に身近な市町村においては、生活全般にかかる相談に対応しているが、松江市以外では、外国人住民からの相談に一元的に対応する窓口を設置しておらず、関係各部署がそれぞれ対応している。 ・外国人住民が年々増えているが、外国人住民を支援する人材が不足している。 ・外国人住民がそれぞれのライフステージにおいて円滑に意思疎通できるための日本語能力が不足している。 ・多文化共生意識の醸成に向けた啓発が不足している。
	③ 方向性	・市町村における外国人住民対応窓口の明確化と相談窓口ネットワークの構築 ・市町村と県内各地の日本語教室との連携強化 ・外国人地域サポーターの見直し ・日本語教育人材の確保・養成 ・外国人住民のニーズに応じた日本語教育の提供、自立した言語使用者を目指すためのプログラム拡充 ・しまね国際センターの体制整備(地域日本語コーディネーター、相談員の継続配置) ・外国人住民からの相談に適切に対応できる環境整備、日本語教育提供のための環境整備 ・多文化共生セミナーの開催



# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

文化国際課

事務事業の名称		国際海外協力事業				
目的	誰(何)を対象として	海外地域住民(島根県との友好交流先、島根県から海外移住した者の子孫)		事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	・島根県が持っている様々なノウハウを海外に移転し、当該国の発展に寄与する。 ・研修員との交流を通じた地域間交流の拡大と国際協力・国際理解の促進を図る。			1,537	1,231
令和7年度の取組内容		・ブラジル等の発展に寄与するため、当該国から研修員を受け入れ、行政機関や民間企業等での研修を実施。 ・研修を通じた研修員と受入機関双方の国際理解の促進。				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直した点		・研修員と受入企業の双方の意向に沿った適切なマッチングを行うため、研修員との綿密な連絡調整によるニーズの把握及び受入企業の魅力や得意分野の把握に努め、連携を図った。				
1	上位の施策	VI-3-(3) 国際交流と多文化共生の推進	3	上位の施策		
2	上位の施策		4	上位の施策		

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類	
1	国際海外協力事業で受け入れた研修員の人数【当該年度4月～3月】	目標値			2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	人	単年度値	
		実績値		1.0	2.0							
		達成率		-	-	-	-	-	-			-
2		目標値										
		実績値										
		達成率		-	-	-	-	-	-			-
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		【研修員受入人数の推移】 R5年度 JICA日系研修員事業での長期研修員受入1名(約6ヶ月) R6年度 JICA日系研修員事業での長期研修員受入1名(約5ヶ月)、短期研修員受入1名(約2週間)										

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・県内の企業等で実施した研修を通じて、研修員は実践的なスキルを身につけ、ブラジルの発展に寄与する人材の育成につなげることができた。 ・研修期間中に実施した学生等との交流、研修員の地域活動参加により、県民及び研修員双方の国際理解を深めることができた。
課題分析	① 課題	・「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点 ・長期研修において、受入機関の調整が円滑に進まないケースがある。
	② 原因	・上記①(課題)が発生している原因 ・3か月以上の長期間の研修であることから、受入機関の負担が大きい。 ・南米では、日系人の世代が進むにつれて日本語能力が低くなる傾向にあり、受入候補機関が研修期間中の意思疎通について懸念されるケースがある。
	③ 方向性	・複数の機関で研修を行うなど、受入機関の負担軽減に努める。 ・翻訳ツールの紹介や、「やさしい日本語」で意思疎通ができるよう、研修員及び受入機関の調整を行う。 ・ブラジルからの研修員受入に際しては、国際交流員の協力も得て、研修員と受入機関の意思疎通がスムーズに行われるよう調整を行う。



# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課	文化国際課
-----	-------

事務事業の名称		国際交流推進事業				
目的	誰(何)を対象として	県民、友好提携先等の自治体・住民		事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どのような状態を目指すのか	北東アジア地域への関心を高め、相互理解と交流を拡大する。 民間における国際交流活動を促進する。 友好提携先との関係を強化する。 次世代を担う国際感覚を備えた青年を育成する。			16,414	24,162
				うち一般財源 (千円)	10,249	16,832
令和7年度の取組内容		・韓国との民間レベルの交流促進や、将来の日韓交流を担うリーダーの育成を図るため、同国への理解を深めることを目的とする講座を実施。 ・北東アジア地域自治体等とのネットワークの構築及び友好交流推進のための事務協議団(寧夏・吉林等)の派遣、受入。 ・北東アジア地域自治体連合(NEAR)の総会への参加等。 ・新しいネットワークづくりや次世代を担うリーダーの育成を目指し、本県と友好提携している北東アジア地域の外国人青年を招致し本県青年と交流するプログラムや、6年ぶりに中国寧夏の国際交流事業に本県青年を派遣するプログラムを実施。				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直したこと		参加者を広く募るため、広報資料を見やすくしたり、情報を届けたい対象を狙い撃ちした広報を実施した。海外理解講座は20代～30代の若者の参加者増加を目的に、講座のテーマを工夫した。				
1	上位の施策	VI-3-(3) 国際交流と多文化共生の推進	3	上位の施策		
2	上位の施策		4	上位の施策		

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	国際交流事業参加人数【当該年度4月～3月】	目標値			80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	人	単年度値
		実績値	86.0	80.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2		目標値									
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		◆国際交流事業の日本人参加者の推移 R5 R6 ・交流の翼inしまねプログラム 7名 10名 ・同上(ホームビジット受入) 0名 11名 ・海外理解講座 79名 59名									

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・R6交流の翼inしまねについては5年ぶりに北東アジア地域の青年を島根県に招致し、対面での交流を実施した。また、プログラム中にホームビジットを実施することで相互理解の促進につながった。 ・R6は吉林省との友好交流30周年であり、相互訪問を始め、東北師範大学による記念公演や両地域における記念写真展の実施等、相互の友好関係を深めるとともに、県民の異文化理解を促進できた。 ・海外理解講座においては、若者をターゲットに大学やSNSを通して広報を行っているが、20代、30代の参加率は伸び悩んでいる。
課題分析	① 課題	・友好提携先との交流事業の認知度が低い。 ・海外理解講座においては、講座の満足度は高いものの参加者の固定化がみられる。
	② 原因	・友好提携先との交流事業が県民に広く認知されていない。 ・海外理解講座については、大学やSNSなど広報しているが、若い世代や新たな層に広く届いていない。また、講座を3回受講することが必須となるため気軽に受講できないことから、学業や仕事との両立が難しい。
	③ 方向性	・友好提携先との交流事業について、実施するだけでなく効果的なPRIにも力点を置く。 ・海外理解講座は、講座の内容、形態の工夫を行うとともに、引き続き県内大学との連携を行い、参加者の裾野を広げる。



## 事務事業評価シート

### 1 事務事業の概要

担当課	文化国際課
-----	-------

事務事業の名称		しまね国際センターの支援			
目的	誰(何)を対象として	公益財団法人しまね国際センター	事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	・県民の国際交流・国際協力や多文化共生等の活動に直接的に関わるしまね国際センターを支援することにより、これらの県民の活動を一層促進する		うち一般財源 (千円)	34,162
令和7年度の取組内容	・県内における国際交流・国際協力や多文化共生等の推進を図るため、しまね国際センターの活動に対する支援と業務委託による連携した取組を実施				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直した点					
1	上位の施策	VI-3-(3) 国際交流と多文化共生の推進	3	上位の施策	IV-1-(2) 地域で活躍する人づくり
2	上位の施策	I-3-(1) 多様な就業の支援	4	上位の施策	

### 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	外国人住民の支援を行うボランティア登録者数【当該年度3月時点】	目標値			260.0	270.0	280.0	290.0	300.0	人	累計値
		実績値	315.0	257.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2		目標値									
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・R6年度(R5年度)KPI内訳 日本語パートナー 94(171)人、コミュニティ通訳ボランティア 71(58)人、災害時外国人サポーター 92(86)人 ※日本語パートナー数の変動は、R6.7月に登録者名簿の整理の実施による ・R6年度(R5年度)訪問型日本語教室学習者数 87(120)人〔地域訪問型 43(89)人、企業訪問型 44(31)人〕 ・R6年度(R5年度)オンライン型日本語教室学習者数 45(70)人 ・R6年度(R5年度)外国人住民向け相談窓口の相談件数 1,251(1,179)件									

### 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・しまね国際センターに県の国際交流・多文化共生推進施策にかかる事業を委託することにより、同センターと市町村、県内の外国人支援団体等との連携が強化され、より効率的な事業実施が可能となった。 ・県から委託する多様な業務に対応することにより、センター職員のスキル向上とノウハウの蓄積につながっている。
	① 課題 「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	・県内における外国人住民の増加に伴い、業務が複雑・多様化し、しまね国際センターに対するニーズは増大しているが、同センターの専門人材は限られているため、こうしたニーズに十分対応できない状況にある。 ・同センターは安定経営のため経費削減を継続実施しており、自主事業の拡大は困難な状況である。
	② 原因 上記①(課題)が発生している原因	・しまね国際センターには主たる収益事業が無いため、経営は基金の運用利益の活用によるところが大きい。近年の低金利政策などにより、これまでのような運用利益の確保は期待できない。 ・このような経営状況の中、新たな専門人材の雇用も難しい。
③ 方向性 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	・県としては、引き続き、しまね国際センターに対し効率・効果的な事業の実施や経費の縮減などを求めながら、同センターが今後も効率的・効果的な多文化共生事業や各種国際交流・協力事業を実施できるよう、国の補助金をはじめとする他財源を活用し、その活動を支援する。	

